

# 鹿児島医セン

連携室だより

2006.8 No. 5

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

## 第1回鹿児島医療センター運営協議会および 地域医療支援病院運営委員会が開催されました！

梅雨明けを目前にしての記録的な豪雨に見舞われましたが、かねてよりご支援をいただいております先生方の施設での浸水等の被害は？と案じております。

この度、第1回目の鹿児島医療センター運営協議会が6月28日(水)、当院の会議室にて行われました。本運営協議会に関しましては、昭和56年4月、国立南九州中央病院の開設以来、関係各方面から外部の関係者をも含めた運営協議会を設置して定期的に協議する場を設定するようとの県、市医師会の要望書(S.56. 2.25付)もいただき開催が強く望まれていた経緯があります。しかしながら、諸般の事情で現在までなかなか開催されないままに推移してきておりましたが、鹿児島医療センターへの病院名の変更と地域医療支援病院の認定等を期に、当院に対する一層のご理解をいただくことが重要であることより、第1回の運営協議会の開催となりました。当日は委員として、鹿大医歯学総合研究科長：吉田浩己先生、県医師会長：米盛 學先生、鹿児島市医師会長：林 茂文先生、県保健福祉部長：吉田紀子先生（県議会中で後刻出席）の出席をいただき、当院からは中村院長以下幹部5名が参加いたしました。会長には県医師会長米盛先生を選出して、院長より当院の運営方針、診療機能などについて報告の後、討議が行われました。紙面の都合で詳細な討議の内容等をお知らせできませんが、大学医学部、大学病院との種々の連携、市民、県民への公的医療機関としての使命、また、民間の会計方法に比して判りにくい会計の表現法の改善など多岐にわたるご指摘をいただきました。永年にわたり開かずの扉で開催されなかった協議会でしたが、今後、毎年1回（来年

は7月に開催予定）開催することが院長より表明されて、和やかな中に閉会となりました。

また、7月20日(木)、同じく当院にて、第1回鹿児島医療センター地域医療支援病院運営委員会が開催されました。委員として外部よりご出席の方々は、県医師会常任理事：野村秀洋先生、鹿児島市医師会副会長：福元弘和先生、鹿児島市消防局警防主幹：森 正道様、鹿児島市保健所長：折田勝郎先生の4名でした。当院からは院長以下、幹部会議スタッフおよび地域医療連携室の全スタッフが参加致しました。委員長に野村先生を選出して約1時間にわたり連携室の運営や、病診連携等について活発な御討議をいただき、今後の地域医療支援病院としての運営について示唆に富むご指導をいただきました。

運営協議会および地域医療支援病院運営委員会の委員の皆様には大変ご多忙の中にもかかわらずご出席いただき有り難うございました。今後とも、当院が本来の役割を適切に果たすことによって市民、県民の皆様にご支持され発展していく病院となるよう、益々のご指導ご助言などを賜りますよう宜しくお願いを申し上げます。  
(副院長 牧野 正興)

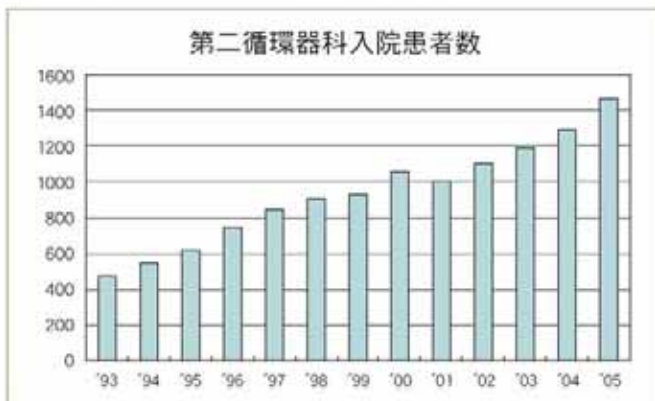


## 当院で行われている 治療のご紹介

その10  
第三循環器科・内科

当科は、1992年3月16日に第二循環器科・内科としてスタートしました。現在のスタッフは、園田正浩循環器科医長以下、医師5名とレジデント2名の計8名の体制にて日常診療を行っています。

診療内容は心血管疾患を中心とした心臓病全般を中心に幅広く診療を行っておりますが、当科の特徴として、循環器疾患だけでなく他の内科疾患が主な診断で全身管理が困難な患者さんも入院されています。当科は50床であります。昨年度は1日平均患者数67.2(最大94名)の驚異的な数をこなしました。下記のグラフは当科に入院した患者さんの年推移を示したのですが、年々増加しております。



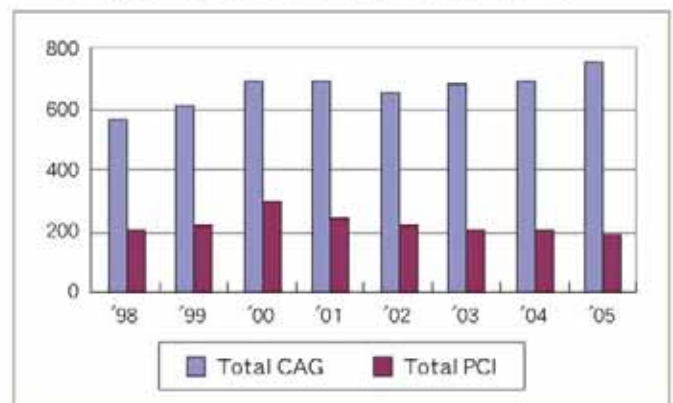
心臓超音波、心筋シンチ、及び心臓カテーテル検査等を含む循環器疾患の諸検査を中心に最善の治療を選択し、特に冠動脈インターベンション(PCI:ステント、ロータブレータ、DCAなど)、カテーテルアブレーション(電気的心筋焼灼術)、ペースメーカーなどの専門的治療を数多く施行しております。その他、末梢動脈硬化性疾患(PVD:下肢動脈、鎖骨下動脈、腎動脈などの全身の血管に及んでいる)に対するカテーテル治療が施行される機会が多くなってあります。

今年度は当院に新しくバイプレーンの心血管撮影装置が導入され、旧シネ装置では画像が見えない患者も新装置では画像が鮮明になりました。そのため、4Fのカテーテルでの冠動脈造影が可能になり、カテ後の止血も楽になりました。また、腎機能の悪い患者における心臓カテーテルおよびインターベンションが必要な患者に対して少ない造影剤での診断・治療が出来るようになりました。マルチスライスCTも活



用し、冠動脈造影の内腔の狭窄だけでなく、血管の質的評価もできるようになりました。

下記のグラフは当科での最近の心臓カテーテル数とPCI数です。PCI数としては横ばいですが、以前と違って複雑病変が増加しており、CABG症例が増えたこと、またステージでなく一回で多枝の治療をするPCIが増加していることの反映とと思われます。



最近では薬剤溶出ステント(DES: Cypherステント)の登場により、再狭窄が減少しPCIの領域で新たな技術革新として注目されています。当科では現在160症例にDESを挿入しました。内1例の患者さんにfocalな再狭窄を認めましたが、他は全例再狭窄を認めず良好な結果が得られています。しかしながら、DESはその後の抗血小板療法等の問題が解決されておらず、当科では比較的慎重に挿入しております。

心不全、不整脈および急性心筋梗塞などの急性期の心疾患は24時間体制で積極的に治療を行っており、病床数が許す限り対応しております。これからも日々努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## 栄養支援チーム (Nutrition Support Team) 活動中

栄養係主任 高倉 幸江

8月で栄養サポートチーム(以下NST)が発足して、1年が経過しました。

当院では、患者様が入院されると栄養スクリーニングを行い、主治医よりNST介入が必要と判断された場合、医師・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士・管理栄養士による栄養面のサポートを行ないます。管理栄養士の役割は、主に経腸栄養や経口摂取を中心に、討議したプランを具体的に食事へと反映させ、体内に摂り込めるよう、形態や食事量、調理法等を提案致します。介入後は、継続してフォローしていくため、週2回のカンファレンス・回診を行なっております。稼働当初は、手探り状態でしたが、現在は、メンバーが各々の専門領域の意見を提供し、



NST=チーム医療の深みが増してきているように思います。

今年に入り、褥瘡や感染症など24例をフォローしました。その中の21例は、主治医や看護スタッフの治療・看護に栄養サポートを加わることで軽快退院という結果を出すに至ったのではと考えております。

今後も患者様の低栄養状態を改善し、原疾患の治療に貢献できるような意味のあるNSTを構築していきたいと思っております。

## スパイスの効いた仕事をしよう

栄養管理室 調理師長 森元 清志

「入院なんて、考えただけで暗くなってしまふ。不安なうえに御飯はまずい」と思っていておいしかったら、とっても嬉しいはず。まずい、冷たい、早い昔の話。

食事が病院の評価を高・低させる要因の一つにもなるだろうし、調理師個々人と病院が一体となって真価を問われる時代であるが故、やりがいもあります。

患者様にとって食べるのが治療の第一歩であり、限られた予算内で工夫し、患者様の要望にもできる限り応えてあげなければなりません。また、好まれる食材も取り入れ、素材のもつ味を生かすことが、調理師には求められています。

患者様には、食事の最後の一口まで「口から食べる権利」があります。それから、化学療法などで変化している味覚にも対処し、おいしく感じていただくかねばなりません。

私たちは職場において人生・生活のための時間を多く費やしています。その目標や課題を料理に例えるならば、スパイス



のようなものであります。スパイスが料理の味を引き立たせてくれるように、仕事や生活空間のなかで自らを奮い立たせる何かが不可欠であるのです。

益々、きびしくなるご時世ですが、栄養士と調理師・他スタッフとの連携プレーを密にして、患者様に喜んでもらえる食事作りに励み、心のサービスも踏まえて精進して参ります。

## 医療安全研修会のご案内

下記の要領で、医療安全の為の講演会を行います。参加希望の方は、地域医療連携室へ、9月15日(金)までにお申し込み下さい。なお定員になり次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込み下さい。

日時	平成18年10月5日(木) 18:30~20:30	講師	中村・平井・田邊法律事務所 弁護士・医師 田邊 昇先生
場所	鹿児島医療センター 会議室	定員	100名
演題	医療訴訟とリスクマネジメント		

## 看護学校祭 LOVE LIFE 愛のある暮らし

6月17日・18日に看護学校祭を開催しました。学校祭・文化祭といえば11月3日の文化の日に近い秋に開催されるのが定番ですが、わが校では、5月12日の看護の日の催しとあわせて毎年6月に開催しています。今年は、昨今の児童虐待や少年による犯罪などが社会問題になっていることから「LOVE LIFE ～愛のある暮らし～」というテーマで、特別講演、児童虐待の現状と防止に関するパネル展示、伊敷病院高良ピアドバンドの演奏、高校生一日看護学生体験、骨密度測定や体脂肪率測定などの健康チェック、鹿児島医療センターでのコンサートなどを行いました。

特別講演は、バーバラ植村先生による「人間愛あふれる地域社会の実現に向けて」でした。バーバラ植村先生は人気歌手のAIさんのお母様であり、2人の娘さんのお母様です。AIさんも現在の活躍をするまでにいろいろな事があり、それをどうサポートしてきたかなど子育ての経験を交えて、親の愛情が児童虐待や少年犯罪を防いでいくことにつながることを話されました。講演に参加して、学生は子供の立場から子供としてどうあればよいか考える事が出来たようです。

鹿児島医療センターでのコンサートは、入院されている患者様とご家族の方々に楽しんでいただき、少しでも癒しの場になればと考え開催しました。このコンサートでは毎年、学生がみやまコンセルの瀬戸口浩先生のご指導を受けて練習した曲を合唱します。今年は「世界に1つだけの花」や「見上げてごらん夜の星を」などを熱唱しました。最後の「ふるさと」では参加された患者様やご家族の方々も一緒に合唱され、学生も感激の涙でした。また、最も感動したの



は、瀬戸口浩先生と奥様の瀬戸口美希代先生のお二人で合唱された歌劇「魔笛」より「パパパの二重唱」です。舞台衣装を着けられ、参加者を引き込んでの舞台は迫力満点ですばらしく、参加者を魅了しました。160名余りの患者様・ご家族の方に参加していただき、楽しんでいただけたことは、入院生活のなかにはほんのひとときではありますが、やすらぎをもたらす事が出来たのではないかと思います。また、企画から歌の練習や準備を行ってきた学生にとってもすばらしい体験となりました。

このように2日間の学校祭を終え、地域の方々との交流や患者様・ご家族との交流を通して、学生一人一人がやりとげた達成感と今後看護者になっていくためのとても大切なものを手にしたのではないかと思います。

(鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 渡部 京子)



### お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター**（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246

<http://www.kagomc.jp>

脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

〈地域医療連携室〉 濱田、岩下、石井、中島、田添、善福

直通電話 ▶▶ 099-223-4425

フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476

※休日・時間外は当直者で対応します。

